



一般社団法人
日本映像ソフト協会 会報
No.211

一般社団法人 日本映像ソフト協会
会員社名(五十音順) 2023年1月1日現在

■ 正会員(25社)
アスミック・エース(株)
ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)
エイベックス・ピクチャーズ(株)
(株)NHK エンタープライズ
NBC ユニバーサル・エンターテイメントジャパン(同)
(株)KADOKAWA
ギャガ(株)
キングレコード(株)
(株)小学館
松竹(株)
(株)ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
TCエンタテインメント(株)
東映ビデオ(株)
東宝(株)
東宝東和(株)
日活(株)
(株)バップ
(株)ハピネット・メディアマーケティング
(株)バンダイナムコフィルムワークス
(株)ポニーキャニオン
ユニバーサルミュージック(同)
(株)よしもとミュージック
リバプール(株)
ワーナー ブラザース ジャパン(同)

■ 協賛会員(14社)
(株)アニプレックス
(株)一九堂印刷所
(株)IMAGICAエンタテインメントメディアサービス
エイベックス・エンタテインメント(株)
SBSロジコム(株)
カルチュア・エンタテインメント(株)
(株)クーブ
(株)金羊社
(株)ジャパン・ディストリビューションシステム
ジーエフケー・インサイト・ジャパン(株)
ソニーPCL(株)
(株)博報堂DY ミュージック&ピクチャーズ
(株)ムービーマネジメントカンパニー
メモリーテック(株)

2023年1月16日発行

編集・発行 一般社団法人 日本映像ソフト協会

〒104-0045 東京都中央区築地2-11-24 第29興和ビル別館2F
電話:03-3542-4433 FAX:03-3542-2535 <http://www.jva-net.or.jp>

アンチリッピングキャンペーン

知って
いますか?

① DVDのリッピングは違法です!

日本映像ソフト協会



Index

2023年 年頭所感	2
新年賀詞交歓会	3
村上副会長中締めのご挨拶	3
関係官庁からの祝辞	4
月間売上統計(9月・10月・11月)	8
第423回・424回定例理事会報告	9
中堅社員合同研修会	9
JVA2022年の主な出来事	10
海賊版サイトに対するオンライン広告対策	11
不正商品撲滅キャンペーン	12
リレーエッセイVol.154	13
人事／日誌に見る協会の動き	14

2023年 年頭所感

一般社団法人日本映像ソフト協会 会長 吉村 隆

新年あけましておめでとうございます。

本年は、恒例の賀詞交歓会を3年ぶりに実施いたしました。感染拡大防止の観点から会員社のみの会としましたので、本誌をもって広く新年のご挨拶を申し上げたいと思います。

2022年を振り返りますと、昨年2月24日にロシアがウクライナに侵攻し世界を揺るがしました。原油価格の急騰やインフレ、円安が進み世界経済が大きく影響を受けました。

我々にとって原材料の高騰、輸送費などが上がり色々と打撃を受けたところもあるかと思います。一方、新型コロナウイルスは未だ収まらず、7、8月には第7波、現在は第8波と終息の気配は見えません。

中国においては、ゼロコロナ政策によって消費が減少に転じ、成長率が年初の予測より2ポイント程下回り3%台となっております。また、アメリカ、ヨーロッパでも、株価の急落や歴史的物価高で利上げを迫られ、今年は更なる景気後退の予測が広がり警戒感が強まっております。日本では昨年の7~9月期に4半期ぶりにマイナス成長に陥り、11月には全国の消費者物価指数が生鮮食品を除いて3.7%上昇と歴史的な上昇幅を見せました。これは何と第2次オイルショックの影響の残る1981年12月以来の上昇幅だそうです。

昨年のこうした状況を振り返りますと、今年も先行きが不透明であると感じざるをえません。

昨年も数多くの話題作が世に送り出されました。映画興行に目を向けますと、前年同様アニメ作品が多数ヒットしました。興収187億円を超えた「ONE PIECE FILM RED」を筆頭に「劇場版 呪術廻戦」「劇場版 名探偵コナン ハロウィンの花嫁」等が興行を牽引しました。特筆すべきは、30数年前大ヒットした、トム・クルーズの代表作「トップガン」の続編「トップガン マーヴェリック」が138億円を超える大ヒットを記録し、世間一般の大きな話題ともなったことです。当作品は、日経トレンドの「2022年ヒット商品ベスト30」で様々な業種のヒット商品がひしめく中、堂々の4位にランクインされました。改めて、良質な作品を世に送りだすことが我々に課せられた使命を感じた次第です。

また、濱口竜介監督の「ドライブ・マイ・カー」が第94回アカデミー賞において日本映画としては13年ぶりとなります“国際長編映画賞”を受賞し、明るい話題を提供していただきました。

パッケージ市場に目を向けてみると、感染防止に軸足のおかれた、2021年に比べて、世間の空気感は「感染防止を徹底しながらも、経済を回していくこう」という考えに軸足が移行していった一年でした。経済活動を活発化させること自体は勿論、悪いことではありませんが、2021年、我々の業界が恩恵にあずかった「巣ごもり需要」が聞かれなくなつたことは、反面痛手だったかもしれません。2021年に健闘していたセル市場も、JVA加盟ソフトメーカーの出荷実績で、前年対比で二桁落ち込み、パッケージ市場は大変厳しい状況が続いております。

一方、配信市場は年々、SVODサービスを中心に市場規模を拡大しておりますが、伸び率において鈍化の傾向が見え始めました。JVAが毎年実施しております「ユーザー動向調査」によれば、

有料動画、セル、レンタルの有料コンテンツに対する一人当たりの年間平均消費金額は、3万数千円、月に直すと3千円程度です。ユーザーレベルで、複数のプラットフォーマーと契約することの経済的困難性が顕在化したものと類推しております。JVA会員社の配信売上も伸長しているものの、伸び率は半分程度に鈍化し推移しております。このような現象に対し、各プラットフォーマーは広告付き低料金プランを打ち出すなど、刺激策を実施しておりますが、コンテンツ提供事業者側の我々にとって問題が無いわけではありませんので、当協会としては今後の動向を注視していきたいと思っております。

配信を中心見られるがちな昨今の市場ですが、コレクションを趣味にしている層では、特典も含めて、セル商品の支持が高かったり、韓国ドラマ等の長編作や旧作では既存のレンタル店が優位だったり、パッケージ市場も一定の評価を受けております。年々、縮小傾向ではあるものの、ユーザー動向調査2021から試算しますと、2,000億円規模のパッケージ市場が存在することもまた事実です。パッケージは日本の大切な文化ですので、JVAとしては、デジタル、フィジカル、双方の市場の健全な育成を図ってまいります。

とはいって、配信市場は市場の半分を超えて、さらに伸長しているのが現実です。デジタル配信に関する調査研究の深堀りを目的に立ち上げたデジタル配信部会ですが、「市場規模マーケティング」「業界統一コードの策定」「違法動画対策」「情報シェアリング/いわゆる勉強会となります」この4つのテーマに絞りチームを編成し、協議を進めております。先々、業界の健全な発展に寄与する部会となることを目標としております。皆様のご協力、この場をお借りしお願い致します。

また、権利侵害対策ですが、2022年2月そして7月に群馬県警によって、映画に関するリーチサイト運営者が摘発されました。9月には北海道警でも摘発がありました。リーチサイト撲滅まで目前となっています。そして、11月にはファスト映画に対する損害賠償請求事件に、全面勝訴することができました。700万円の広告収入に対して、5億円の損害賠償額の判決が下るなど大きな抑止力になったと思います。今後も権利侵害に対しては、コンテンツ海外流通促進機構(CODA)をはじめ、関係団体と連携し毅然とした態度で臨み抑止力を高められるよう努めてまいります。

冒頭でも申し上げましたが、新型コロナウイルスは終息したわけではありません。また、ウクライナ問題もいつ落ち着くのかはわかりません。ただ、間違なく言えるのは、このような先の見えない時代でも、ユーザーからは「面白い作品」「良い映画」が求められているということです。皆様と知恵を出し合い、共に手を取りあって良い1年にしていこうではありませんか。

本年も、会員各社、関係官庁、関係団体等の皆様からの一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。また何より、皆様方のご健康を心から祈念いたします。

3年ぶりに賀詞交歓会を開催！

2023年1月6日(金)午前11時00分より、千代田区市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」にて、3年ぶりとなる一般社団法人日本映像ソフト協会新年賀詞交歓会を開催した。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、出席者は日本映像ソフト協会会員社のみに限定し規模を縮小するとともに、食事なし・ドリンクのみご提供の開催となった。当日は清々しい晴天に恵まれ、33社160名の大勢の方々にご参集いただき通常より小規模ながら盛大な会となった。冒頭に吉村隆会長(株ポニーキャニオン 代表取締役社長)から挨拶があった。「引き続きコロナ禍であることに加えてロシアによるウクライナ侵攻の問題も先が見えず、経済的に厳しい環境下ではあるものの、ユーザーからはより良質な作品が求められている」とのことでの、新年の意気込みを語った後に吉村会長が乾杯の音頭をとり賑々しく開宴した。やむを得ず飲み物だけの宴となつたが、会員社の皆様にとっては、3年ぶりの開催となったことから、久しくお会いしてなかつた方との語らいや、人事異動



等によって担当部署の変更等から新たな出会いがあり、今後の映像ソフトビジネスのこと、或いは思い出話に花が咲いたように賑やかに催しされた。中締めには、村上潔副会長(キングレコード㈱ 代表取締役社長)よりご来場御礼の挨拶があり、閉宴となった。

◆中締めご挨拶◆

副会長 村上 潔



皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

長引くコロナ

禍の影響で、2年間開催を見合わせたこの新年賀詞交歓会ですが、今年は感染防止対策を最優先に考え、参加者数や開催時間を縮小しての開催となりました。例年であれば昼食を兼ねてお料理も提供しておりましたが、今回は飲み物のみの提供での開催となり、大変申し訳ありません。それでも、久しぶりにリアル・対面でのこのような機会に、会員社の皆様がこうして直に新年のご挨拶を交わす大切さを再認識し、相手の目を見ながらさまざまなコミュニケーションを取っていただいたことに意義があると強く感じております。

会の冒頭で吉村会長の年頭所感にあったとおり、レンタルを含むパッケージ市場には非常に厳しい

アゲインストの風が吹いています。デジタル配信に活路を見出さることも簡単なことではありません。それでも、映像ソフト業界には才能あふれる人材がたくさんいます。本日お越しの会員社各社にもこの苦境を乗り越える斬新な企画力や柔軟なビジネスアイデアを持つ方々が数多くいらっしゃいます。個社が成果を上げていくことはもちろん大切なことですが、現在の苦戦の状況を打破していくには、映像業界全体でコミュニケーションを密にして、知恵を出し合って新しい鉱脈を見つけていくことも必要だと思います。

新型コロナウイルスの明確な終息はまだ見えませんが、映像エンタテインメントが世の中を明るく元気づけていくことは紛れのない事実です。会員各社、関係官庁、関係団体の皆様が「映像ビジネスが世の中を元気にする」という気持ちで一つになって業界を盛り上げてまいりましょう。

日本映像ソフト協会の理事・スタッフ一同も前を向いて頑張ってまいります。

本日はお運びいただき、誠にありがとうございました。

◆新年祝辞◆

経済産業省
商務情報政策局長
野原 諭 様



令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、私達が新型コロナウイルス感染症と向き合い、社会経済活動との両立を進めてきた一年でした。

そうした中においても、映像制作現場を取り巻く環境は依然として様々な困難に直面しております。他方で、映画の公開作品が増加してきているなど、映像制作に係る市場が好転していく兆しも見えてきております。

昨年12月2日に成立した令和4年度第二次補正予算において、経済産業省として国内映像制作会社向けの支援策を新たに盛り込ませていただきました。日本の映像コンテンツは世界でも高い評価を得ており、海外展開に向けた積極的な取組などをしっかりと支援してまいります。

他方で、新型コロナウイルス感染症による新たな生活様式が広がってきたことに伴い、映像をはじめとするコンテンツをスマートフォン等で自分の好きな時に鑑賞するスタイルが一般的になりました。そうした中で、インターネット上の海賊版サイトによる被害は未だ深刻です。

2020年の著作権法改正により、リーチサイト規制が2020年10月から施行され、ダウンロードの違法化についても2021年の1月より施行されております。また、2021年6月には大規模海賊版サイトの元運営者に対して、著作権法違反などで実刑判決が確定しております。加えて、昨年は映画・映像業界をはじめ関係の皆様のご尽力により、ファスト映画の運営者

に対して損害賠償を認める判決が下るというニュースがありました。このように国内における海賊版対策は大きく前進しました。

一方で、日本国外を拠点とした海賊版サイトによる被害は未だ収まる気配がありません。

これらの海賊版サイトの閉鎖に向けては、刑事訴訟手続における運営者の身柄確保や、民事訴訟手続における損害賠償請求等の実力行使が重要です。昨年は、中国における大規模な海賊版サイトの運営者が摘発されるなど、一定の成果が出てきております。一昨年来、経済産業省では一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構(CODA)への委託事業として、エシカルハッカーの協力を得て、海賊版サイトの運営者特定に取り組んでおります。引き続き、政府を挙げて権利者を守る対策を進めてまいる所存です。

今年は、十干十二支の「癸卯(みづのとう)」であり、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になるとされています。世界に向けて、日本は変わりつつある、更に変わっていく、というその姿を発信し、新しい一步を踏み出していけるよう、取組を後押ししてまいります。

本年も、皆様のより一層の御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



❖新年祝辞❖

警察庁
生活安全局
生活経済対策管理官
平居秀一様



皆様、あけましておめでとうございます。
一般社団法人日本映像ソフト協会の皆様には、平素から知的財産権の保護、不正商品排除のため御尽力いただいていることに対し心から敬意を表するとともに、感謝申し上げる次第でございます。

さて、昨年は、引き続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が残る中、外国人観光客の受入れや各種イベント等が再開されるなど、いわゆる「コロナ禍」も新たな段階へ移行してきたように思います。

そのような中、昨年中は、アニメ等が違法にアップロードされた海賊版サイトへ誘導するリーチサイト事案のほか、依然として流行のアニメキャラクター等を模倣したグッズや海賊版DVDをインターネットで販売する事案が多数認められたところですが、関係者の皆様の御協力により、悪質な事案については、少なからず検挙に至り、同種事犯に対する警鐘を鳴らすことができたものと考えております。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた「新しい生活様式」の定着や加速する社会のデジタル化によって、私達の生活は大きく変化しており、今やインターネットの空間は、全国民が参画して重要な社会経済活動を営む公共空間へと変貌を遂げております。その一方で、海賊版サイトによる被害の深刻化やECサイト等の電子商取引を通じた侵害物品の流通拡大といった新た

な治安課題を生み出しており、この種事犯への取締りが喫緊の課題となっております。

特に、インターネットを利用した著作権侵害事犯については、被疑者が通信匿名化技術や海外のインターネットサービスを利用していることが多く、被疑者の割り出しや追跡が困難な点が課題となっており、国際捜査の枠組みを活用するなどして取締りを推進するとともに、引き続き貴協会をはじめとする関係者の皆様の知見を頂戴しながら、今まで以上に連携強化に努めてまいる所存であります。

加えて、貴協会には従前から、不正商品対策協議会の事務局を担っていただきなど、知的財産権保護のための諸活動を積極的に推進していただいており、この点についても感謝申し上げますとともに、本年も引き続き、警察活動への御理解と御協力を賜れば幸いです。

結びに、貴協会のますますの御発展と御多幸を祈念いたしまして年頭の御挨拶といたします。

❖新年祝辞❖

文化庁
審議官
中原裕彦様



新年あけましておめでとうございます。
一般社団法人日本映像ソフト協会におかれましては、日頃より映像ソフト業界の中核的団体として、著作権に関する広報・普及啓発活動、著作権保護と無断利用の防止に関する諸活動などに取り組まれており、皆様方の御尽力に対しまして、本誌をお借りして深く敬意を表します。

とりわけ、一昨年から話題となった「ファスト映画」に関して、関係団体が警察当局と連携して投稿者の摘発に取り組まれ、この度、その損害賠償額に関する東京地裁の判断が示されたところであります。メディアでも大きく取り上げられたところです。このような新しい権利侵害行為に対して関係業界の皆様方が迅速に対応された成果を受け止めております。

さて、コンテンツの創作・流通・利用に関する環境変化はめまぐるしく、文化庁では、このような時代の変化に対応し、コンテンツ創作の好循環の最大化を図る方策の在り方について、一昨年以降、文化審議会著作権分科会において審議検討を重ねてまいりました。

その中でも、UGCや過去のコンテンツを含む多種多様なコンテンツの利用円滑化と適切な対価還元を図るために、分野を横断する一元的な窓口組織を活用した新しい権利処理の仕組みの創設に向けて、著作権法の改正案を国会に提出するべく、準備を進めております。

また、新たな対価還元方策については、同分科会において引き続き検討しているところでございますが、私的録音録画補償金制度に関し、昨年、新たな対価還元策が実現する

までの過渡的な措置として、ブルーレイディスクレコーダーを対象に追加しました。貴協会も含めた映像関係団体の私的録音録画補償金管理協会への参画など運用面での準備が進められることなどを踏まえた措置であり、管理協会の補償金関係業務に関して、文化庁としても引き続き必要な取組を行って参る所存です。

そして、すでにご承知のとおり、コロナ禍における巣ごもり需要の増加により、インターネット上の海賊版被害が深刻さを増しています。昨年、関係者の皆様の御尽力により、国外の者が運営する大規模な海賊版サイトの閉鎖や、海外の広告会社に対する海賊版サイトでの広告収入サービスの停止要請が行われ、提供が取りやめとなるなど、一定の成果が見られたところですが、後継サイトが次々に出現しており、継続して対処が求められている状況です。文化庁では、昨年、海賊版対策に関するポータルサイトを立ち上げるとともに、海賊版被害に対応するため相談窓口を開設したところであり、本年も引き続き、関係府省庁と連携しながら、海賊版サイトの撲滅に向け実効性のある取組を進めてまいります。

結びとなりますと、本年も著作権行政に関する引き続きの御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げるとともに、貴協会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げまして年頭の御挨拶とさせて頂きます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

◆新年祝辞◆

内閣府
知的財産戦略推進事務局長
田中 茂明 様

新年明けましておめでとうございます。
デジタル化・グリーン化のグローバル競争に生き残り、新型コロウイルス感染症によりダメージを受けた日本の経済を回復していくためには、「イノベーション」の力を最大限発揮する必要があり、「意欲ある個人を含む新たなプレイヤーが社会の知財をフル活用できる経済社会への変革」というビジョンを副題として添えて、「知的財産推進計画2022」を昨年6月の政府の知的財産戦略本部において、決定しました。

本計画では、昨年の計画に引き続き、WIPOのグローバル・イノベーションインデックスにおいて、引き続き我が国が主要国と比べて低順位にとどまっていることに示されているとおり、「イノベーション後進国」に転落した状況から脱却できていないとの危機感の下で、知財・無形資産投資の不足、日本の知財がフル活用されているとは言えないこと、自己完結型の企業の知財管理の問題、大学の知財の事業化のネック等の問題点を掲げ、イノベーションの担い手の多様化に対応し、より幅広いプレイヤーが、社会全体に蓄積された技術や知財にアクセスし、活用して事業化につなげやすい環境の整備を今後の知財戦略の方向性として示しております。

まず、「スタートアップ・大学の知財エコシステムの強化」については、スタートアップが大学等の保有する知的財産を円滑に活用し、事業展開できるよう、大学と企業との共同研究成果の取扱いに関するルール、株式・新株予約権の取得促進等の課題への対応方針を「大学知財ガバナンスガイドライン(仮称)」として策定することとしており、政府の「スタートアップ育成5か年計画」にも位置付けられているところです。また、企業が知財・無形資産に対して積極的に投資し、活用することを促すため、企業の知財・無形資産の投資・活用戦略の開示とガバナンスを強化し、投資家や金融機関から適切に評価され、企業価値が向上し、さらなる知財・無形資産への投資に向けた資金の獲得につながるような仕組みを構築することが重要です。この仕組み構築に向けて、一昨年6

JVA会員によるメーカー出荷段階の金額、数量について集計した統計調査

2022年9月度

	9月実績(金額単位:百万円 数量単位:千本・千枚)								1月~9月の累計								
	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同月比	新作数	前年同月比	売上金額の増減社数	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同月比	新作数	前年同月比
販売用(個人向)	3,082	78.3%	116.0%	776	40.4%	112.8%	163	82.3%	増減 11社 12社 その他 3社	24,815	74.9%	76.1%	6,591	46.8%	77.0%	1,875	83.4%
特殊ルート	46	1.2%	1533.3%	587	30.5%	1860.1%	3	-		194	0.6%	114.1%	1,300	9.2%	185.5%	17	154.5%
レンタル店用	779	19.8%	87.8%	556	28.9%	72.5%	399	84.4%		7,846	23.7%	81.0%	6,152	43.7%	97.2%	4,188	108.4%
業務用	30	0.8%	100.0%	5	0.2%	135.1%	5	125.0%		258	0.8%	87.2%	42	0.3%	31.9%	70	72.2%
DVDビデオ	3,937	30.5%	110.1%	1,924	56.4%	131.6%	570	84.4%		33,113	38.7%	77.5%	14,085	60.2%	89.6%	6,150	98.9%
販売用(個人向)	8,876	99.1%	199.3%	1,454	97.9%	190.5%	188	96.4%	増減 12社 11社 その他 3社	51,404	97.9%	88.9%	8,821	94.7%	87.4%	1,813	94.2%
特殊ルート	4	0.0%	14.8%	1	0.1%	26.0%	0	-		195	0.4%	99.0%	33	0.4%	98.3%	0	0.0%
レンタル店用	78	0.9%	288.9%	27	1.8%	49.1%	3	100.0%		709	1.4%	128.7%	430	4.6%	128.1%	70	92.1%
業務用	2	0.0%	14.3%	4	0.2%	231.6%	1	-		193	0.4%	86.2%	35	0.4%	102.0%	1	-
ブルーレイ (Ultra HD Blu-rayを含む)	8,960	69.5%	198.1%	1,485	43.6%	180.3%	192	97.0%		52,501	61.3%	89.3%	9,319	39.8%	88.8%	1,884	94.0%
合計	12,897	100.0%	159.2%	3,409	100.0%	149.1%	762	87.3%		85,614	100.0%	84.3%	23,404	100.0%	89.2%	8,034	97.7%

2022年10月度

	10月実績(金額単位:百万円 数量単位:千本・千枚)									1月～10月の累計								
	金額	構成比	前年同期比	数量	構成比	前年同期比	新作数	前年同期比	売上金額の増減社数	金額	構成比	前年同期比	数量	構成比	前年同期比	新作数	前年同期比	
販売用(個人向)	2,620	74.5%	87.9%	658	46.3%	81.3%	188	94.0%	増減 10社 13社 その他 3社	27,435	74.9%	77.1%	7,249	46.8%	77.3%	2,063	84.3%	
特殊ルート	7	0.2%	50.0%	32	2.2%	50.0%	3	150.0%		201	0.5%	109.2%	1,332	8.6%	174.2%	20	153.8%	
レンタル店用	858	24.4%	73.3%	726	51.1%	83.8%	251	51.4%		8,704	23.8%	80.2%	6,878	44.4%	95.6%	4,439	102.0%	
業務用	31	0.9%	103.3%	4	0.3%	91.1%	1	3.6%		289	0.8%	88.7%	46	0.3%	33.7%	71	56.8%	
DVDビデオ	3,516	36.8%	83.8%	1,420	55.7%	81.4%	443	61.7%		36,629	38.5%	78.0%	15,505	59.7%	88.8%	6,593	95.0%	
販売用(個人向)	5,987	99.1%	91.5%	1,085	96.1%	99.1%	180	104.0%		57,391	98.0%	89.1%	9,906	94.8%	88.5%	1,993	95.0%	
特殊ルート	17	0.3%	48.6%	3	0.3%	55.8%	0	-		212	0.4%	91.4%	36	0.3%	92.1%	0	0.0%	
レンタル店用	39	0.6%	62.9%	41	3.6%	62.7%	5	38.5%		748	1.3%	122.0%	471	4.5%	117.6%	75	84.3%	
業務用	1	0.0%	12.5%	0	0.0%	16.0%	0	0.0%		194	0.3%	83.6%	35	0.3%	97.2%	1	100.0%	
ブルーレイ (Ultra HD Blu-rayを含む)	6,044	63.2%	90.9%	1,129	44.3%	96.7%	185	98.9%		58,545	61.5%	89.4%	10,448	40.3%	89.6%	2,069	94.4%	
合計	9,560	100.0%	88.2%	2,549	100.0%	87.5%	628	69.4%		95,174	100.0%	84.7%	25,953	100.0%	89.1%	8,662	94.9%	

2022年11月度

	11月実績(金額単位:百万円 数量単位:千本・千枚)								1月～11月の累計								
	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同月比	新作数	前年同月比	売上金額の増減社数	金額	構成比	前年同期比	数量	構成比	前年同期比	新作数	前年同期比
販売用(個人向)	2,579	77.7%	109.8%	686	49.3%	101.7%	185	101.6%	増減 9社 その他 14社 3社	30,014	75.1%	79.2%	7,934	47.0%	79.0%	2,248	85.5%
特殊ルート	5	0.2%	50.0%	24	1.7%	107.8%	1	100.0%		206	0.5%	106.2%	1,356	8.0%	172.4%	21	150.0%
レンタル店用	701	21.1%	67.3%	678	48.7%	80.4%	266	58.2%		9,405	23.5%	79.1%	7,557	44.7%	94.0%	4,705	97.8%
業務用	33	1.0%	89.2%	4	0.3%	108.4%	5	125.0%		322	0.8%	88.7%	50	0.3%	35.7%	76	58.9%
DVDビデオ	3,318	36.8%	96.6%	1,392	57.7%	90.2%	457	71.0%		39,947	38.3%	79.3%	16,897	59.6%	88.9%	7,050	93.0%
販売用(個人向)	5,548	97.6%	107.7%	968	94.7%	118.4%	166	86.9%		62,939	98.0%	90.5%	10,874	94.8%	90.6%	2,159	94.3%
特殊ルート	90	1.6%	128.6%	8	0.8%	85.3%	0	-		302	0.5%	100.0%	44	0.4%	90.8%	0	0.0%
レンタル店用	28	0.5%	30.8%	43	4.3%	47.2%	6	42.9%		776	1.2%	110.2%	514	4.5%	104.4%	81	78.6%
業務用	21	0.4%	525.0%	3	0.3%	331.0%	0	-		215	0.3%	91.1%	38	0.3%	102.4%	1	100.0%
ブルーレイ (ULTRA HD Blu-rayを含む)	5,687	63.2%	107.0%	1,022	42.3%	111.1%	172	83.9%		12社 11社 その他 3社	64,232	61.7%	90.7%	11,470	40.4%	91.1%	2,241
合計	9,005	100.0%	102.9%	2,414	100.0%	98.0%	629	74.1%		104,179	100.0%	86.0%	28,367	100.0%	89.8%	9,291	93.1%

第423回、第424回定例理事会報告

11月1日(火)午後2時00分より第423回定例理事会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためと決議事項などの重要案件もないため、書面での開催とした。

議事の要旨は次のとおり。

●決議事項

決議事項はありません。

●報告事項

1. 各部会報告について
2. 2022年9月度ビデオソフト売上速報について
3. 2022年9月度映像配信統計報告について

12月6日(火)午後2時00分より第424回定例理事会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、リモートによって執り行われた。議事の要旨は次のとおり。

●決議事項

第1号議案 2022年下期賞与支給額(案) 承認の件

●報告事項

1. 各部会報告について
2. 2022年10月度ビデオソフト売上速報について
3. 2022年10月度映像配信統計報告について
4. JVAオフィス移転の途中報告

中堅社員合同オンライン研修会

2022年度中堅社員合同オンライン研修会を実地

業務部 総務人事委員会(小樽洋史委員長((株)ポニーキャニオン))は、10月19日(水) 午後1時30分より、新型コロナウイルスの蔓延により中止されていた中堅社員合同研修会を3年ぶりにオンライン形式で実施した。

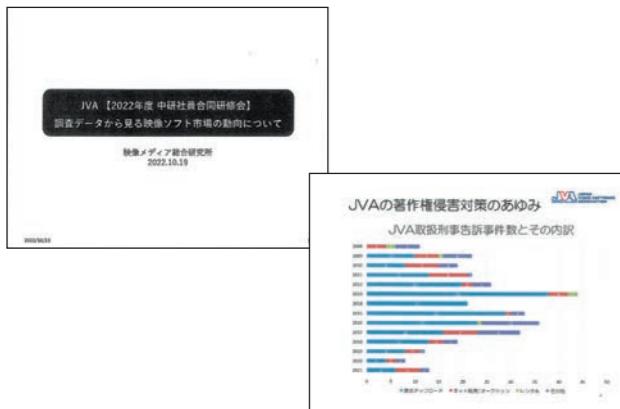
参加社はエイベックス・ピクチャーズ(株)、キングレコード(株)、松竹(株)、東映(株)、東映ビデオ(株)、東宝(株)、(株)ポニーキャニオンの7社、18名となった。

冒頭、小樽洋史委員長により趣旨説明が行われ、続いて当協会 後藤健郎専務理事よりJVAの活動紹介が行われた。

その後、前半のプログラムとして、映像メディア総合研究所代表の四方田浩一様を講師にお招きし、【1】「調査データから見る映像ソフト市場の動向について」を、続いて当協会 高木俊業務部部長によって、【2】「JVAと著作権侵害対策について」をテーマに講義が行われ、質疑応答がなされた。

後半のプログラムでは、「ビデオソフトユーザーを増やすためには」をテーマに、他社同士が交流する形でA~Dの4つのチームに分かれてグループワークが行われ、各チームの発表をもって、研修会は無事終了となった。

*本文中の社名は50音順にて掲載。



ファスト映画に係る損害賠償請求訴訟について

専務理事 後藤 健郎



11月17日、ファスト映画に係る損害賠償請求訴訟に対する判決が下りました。原告13社は、損害額を20億円相当であるものと算定し、このうち最低限の損害回復を求めるものとして5億円の一部請求を支払いとして求めていたものです。結果として、我々の主張を全面的に認めた判決となり、著作権侵害に対する大きな抑止力になるものと考えます。

判決を受けて、当日にJVA会議室において記者発表会を開催しました。マスコミの関心はかつてないほど高まっており、数多くのマスコミがかけつけてくれました。

私からは5つのコメントを述べました。

①今回の判決で、YouTube上のファスト映画1再生につき、被害額が200円と認められたことは今後の対策に大きく資するものです。ファスト映画という約10分間のストリーミング侵害動画の被害額が認定されたことによって、今後この金額を最低限の被害額として算定する根拠となりました。

②本件は、昨年の6月23日に宮城県警によって被疑者らが逮捕され、11月16日に有罪判決が下り、12月1日に刑が確定し、その後に本年の5月19日に原告13社が損害賠償請求訴訟を提起し、11月17日判決ということで、刑事摘発から民事解決までが17ヶ月、1年5ヶ月という、それこそ「ファスト解決」となりました。画期的な速さです。我々が海賊版対策の目標とする、「侵害情報の収集・分析、そして刑事から民事」といった総合的なワンパッケージを最短で実現した事例として今後の指標の一つとなることでしょう。

③これはひとえに原告13社の皆さんの迅速な判断・決断によるものであり、さらにこの毅然とした態度に呼応する形で、JVA顧問弁護士である前田哲男先生をはじめとする弁護団の先生方にご尽力いただいたたるものであると思います。「やり得」を許さないという皆さんの強い意志が実を結んだと感じています。

④今回のファスト映画の背景として、Z世代を中心としたタイムパフォーマンス意識や巣ごもり需要も相まって、本当に軽い気持ちで視聴されていたことが被害拡大の要因となりました。ファスト映画をはじめ侵害サイト、海賊版サイトは見ないということを広く理解していただくための広報啓発活動に努めてまいります。視聴することによって広告収入を得る海賊版サイトを手助けしてしまうこと、権利者に対価のリターンがなければ新たなコンテンツを創造するというエコシステムが崩壊してしまうことなどについて丁寧に訴求していきます。

⑤最後に、いま日本のコンテンツは、世界中の海賊版サイトから、視聴数を稼げて、権利者は権利行使しないと侮られ、「ローリスク・ハイリターン」のおいしいビジネスの対象と見られている感があります。それらを払拭するべく、今後とも積極的に刑事・民事といった権利行使を展開していきます。

おかげさまで現在YouTubeにおいて、日本映画に関するファスト映画は存在せず排除することに成功しました。ご支援ご協力をいただきました会員社の皆さんに厚く御礼申し上げます。

海賊版サイトに対するオンライン広告対策

一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構

海賊版サイト対策において、もっとも効果的であるといわれる対策の1つに「広告対策」がある。海賊版サイトの運営者を摘発し、サイトを閉鎖に追い込むのが理想的ではあるものの、昨今の海賊版サイトは海外の秘匿性の高いサービスなどを利用して巧妙に身元を隠しており、摘発が大変難しくなっているのが現実だ。権利者が海外で情報開示請求手続きなどを行い、運営者の摘発に成功できたとしても、これには相当の時間を要し、その間にも海賊版サイト運営者は暴利を得続けている。

そこで、運営者の追求を行うことと並行して、運営者が利用するサービスなどをストップし「間接的に」海賊版サイトの対策を行うことが重要となっている。例えばセキュリティソフト事業者と連携しフィルタリングでアクセスを抑止する試みもそのうちの1つである。

運営者を兵糧攻めにする広告対策は特に有効で、海外でも「Follow the Money」として注力されている。

侵害サイトリスト(IWL: Infringing Website List)を広告事業者と共にし、広告出稿を停止するという取り組みは、2013年にロンドン市警知的財産犯罪ユニット(PIPCU)がいち早く取り組みを始め、注目を集めた。

2016年にCODAは、PIPCUの幹部を日本に招聘し、先進的な知財保護活動についてCODAで講演を行ってもらうなど、広告対策の必要性について理解を求めてきた。当時の講演で英国では、IWLの共有により、2010年の4月から2015年の4月の5年間で侵害サイトへの広告掲載が73%も抑止されたと発表されていた。

日本国内における広告対策

一方、当時日本においては、インターネットの進展に伴うオンライン広告の急速な発展に水を差しかねないと懸念もあり、海賊版対策に広告対策を取り入れるという考えは広く支援を受けるまでに至らなかった。

また当時、権利者団体と広告団体との間には交流がなく、オンライン広告についてともすれば否定的な意見を述べる権利者団体は、広告団体からすれば警戒すべき相手のように感じるなど双方に隔たりもあった。

そこでは現況の情報共有や、協力できることの検討を始め、後に「要警戒リスト」という名称の日本版IWLの共有が日本のオンライン広告3団体に向けて開始された。2018年からは3団体とCODAとの間で定期協議を実施することを決め、2カ月に1回の頻度でリストの共有や協議が行われている。現在では悪質な海賊版サイトには3団体加盟企業の広告が掲載されることなく、民間協力が大きな成果を上げている。

海外における広告対策

インターネットに国境はなく、日本の広告掲載が厳しくなって

も、海外の広告が掲載されるケースもある。CODAは、世界知的所有権機関(WIPO)が開発・管理する「WIPOアラート情報共有プラットフォーム」(以下WIPOアラート)へ海賊版サイトなどに関する情報提供を行うことに合意し、2020年9月23日にWIPOとの間で「合意書」を締結した。WIPOの取り組みに民間組織の参加が認められたのは日本のCODAが初めてのことだという。

WIPOアラートの取り組みに参加する国・地域においても広告の出稿停止による海賊版対策の成果が期待されている。

■アウトサイダーへの対策

国内・海外いずれにおいても、広告団体に所属しない事業者は存在する。この中でも悪質な事業者は、アクセスを数多く集める海賊版サイトに対し、積極的に広告掲載を推奨するなどの事実が顕在化している。

日本においては、団体に所属しない広告事業者のうち、悪質な海賊版サイトへの出稿が認められた法人に対し、広告団体とCODAとが連名で広告出稿抑制の依頼書を発送するなど、個別の対応を行うよう対策に努めている。

さらに海外においては、サイトの内容に関わらずアクセスを集めるサイトに大量に広告を出稿している事業者も多く、対策は困難を極める。

2022年10月、CODAは、日本コンテンツを侵害する海賊版サイトに広告を出稿するスペインの広告配信事業者に対し、広告の配信を止めるよう文書で要求した。日本の権利者が海外の広告事業者に対して、具体的に広告出稿停止を要求したことはこれが初めてである。広告事業者は、広告事業者がサービスを提供するすべてのWebサイトの内容を把握することは不可能であると事情を述べたうえで、今回の要求で指摘したサイトのすべてとの契約を解除しサービスの提供を停止したこと、また今後についても知的財産権を侵害する者に対するサービス提供や契約を行わないことを徹底することなどを誓約した。今後、悪質な広告事業者については同様に出稿停止を要求し、契約する海賊版サイト運営者の情報開示を求めるなどの対策を継続したいと考えている。

■海賊版サイトに掲載される広告の現状

上記で述べたように、海賊版サイトに掲載される広告にはさまざまな対策が取られており、現在残っている広告は、アダルトやギャンブルなどアンダーグラウンドなものが大半を占めている。これにより、正規許諾サイトとの差別化ができ分けがつきやすくなった。しかし、「海賊版サイト」と知りながらアクセスする人々に対しては、詐欺サイトやマルウェアへ誘導される危険性について訴求するなど広報啓発が重要となってくる。

不正商品撲滅キャンペーン

不正商品対策協議会(ACA)は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年2月以降開催を見送っていた不正商品撲滅キャンペーン「ほんと?ホント!フェア」について、この度ようやく再始動を果たしたので、その概要を以下のとおり報告する。なお、感染予防対策には万全を期した上で実施に及んだ。

ほんと?ホント!フェア in 池袋

- 期 日:2022年10月2日(日)
- 会 場:池袋西口公園野外劇場(グローバルリングシアター)
- 後 援:警察庁、特許庁、警視庁、特許庁、豊島区
- 入場者:約2,000人



「不正商品撲滅キャンペーン1日応援隊長」に人気タレントの王林さんを任命し、10代～20代の世代に向け、不正商品撲滅に関するメッセージを発信した。また、会場ステージでは、立教大学体育会応援団吹奏楽部、シンガーソングライターDressingさん、複音ハーモニカ奏者寺澤ひろみさんによるライブ等が行われ、大いに盛り上がった。

他にも、警視庁、池袋警察署のご協力による白バイやピーポくんとの写真撮影会、女優のんさん出演のPR映像、人気漫画



ほんと?ホント!フェア in 富山

- 期 日:2022年12月3日(土)
- 会 場:イオンモール高岡(富山県高岡市)
- 後 援:警察庁、特許庁、富山県警察本部、高岡警察署
- 入場者:約500人

リオデジャネイロ五輪女子レスリング金メダリストである、地元高岡市出身の登坂絵莉さんをメインゲストとしてお迎えし、「不正商品撲滅キャンペーン1日応援隊長」として、「きちんとルールを守ることが大切。一生懸命努力した人が報われる社会であってほしい。」と力強いメッセージを発信した。また、会場ステージでは、富山県警察音楽隊によるミニコンサート、バルーンアーティストのメリーさんによるパフォーマンス、知的財産に関する○×クイズ大会等が繰り広げられ、立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。

家族連れを中心とした来場者に、富山県警察のシンボル



マスコット立山くんや白バイとの写真撮影会、女優のんさん出演のPR映像、人気漫画家らが「STOP! 海賊版」をテーマに書き下ろした漫画パネルの展示、ホンモノ・ニセモノを比較する約100点の展示品、クイズラリー等を通して知的財産権保護の大切さをPRした。





Relay essay

今関 裕司 氏(株式会社バップ 東日本営業部 専任部長)からのご紹介

加賀谷 穂高 氏

株式会社KADOKAWA
文芸・映像事業局 映像営業部 部長

vol.154

「土曜日の朝、皆様はどうお過ごしでしょうか？」

私は約1年前から、午前8時20分よりテニスをする事が日課になりました。

といいますのも、自宅の最寄駅前に大きなインドアテニススクールが出来、ジュニアクラスと、パパママクラスがあるこの時間に娘と一緒に通うことになったというのが経緯です。

パパママクラス…、子供たちのレッスンを待っている間、ゆるくテニスを嗜む程度の内容かと思いこみ、参加したのですが、コートに出てみると、皆腕に覚えのある、お父様・お母様ばかり。レッスン時間は、前後左右に振られるコーチとのラリー、生徒同士のラリーの応酬、バランスボールに乗ってのボレー練習など、まさに‘大人の部活動’といった様相だったのです。

高校時代、部活でテニスはある程度経験はありました、ヘッポコ部員だったので、飛んできたボールに追いつけない、足がもつれる、打っても思うような方向に行ってくれない。「皆様に迷惑をかけてしまう！」という申し訳なさと、「体力がもつのか」という不安で、久しぶりに仕事以外の事でちょっと落ち込んでしまいました。

しかし上手な人は、どんなボールも拾ってくれて、打ちやすいように打ち返してくれる。そして、試合の時も楽しく試合進行出来るように、ゆるいボールをあげても打ち込んできたりしない。そんな‘大人’のみなさんに助けられる日々…。テニスは(疲れて、その日一日ぐったりしている気もするけど、それでも)楽しい。なんとか上手になりたい。レッスンについていきたい。と、ググったところ、たどり着いたお悩み相談サイトに、丁度、私と同じようなご相談者が。彼女への回答は「とにかく、まずは相手のコートにボールを返しましょう。」と。

とにかくボールを返すためには、まずボールに追いつかなくてはならないと、意を決して、ランニング

を始めました。朝、娘を送り出してから仕事を始める前の約30分、週1~2回、5キロほど走るようになりました。最初はやはり苦しかったですが、慣れてくると、朝の空気を吸いながら走ることは清々しい気持ちになりますし、前日の夕食をちょっと食べ過ぎてもあまり気にしなくていいというおまけも(笑)

その効果があってかどうかは分かりませんが、だいぶレッスンにも慣れ、思うように打てない時や、試合でなかなか勝てない時もありますが、しっかりボールを返し、ラリーが続く時間も以前よりは増え、なんとかやっていけるかな。という今があります。

一方の娘は、母親の悪戦苦闘を尻目に、サクサクとクラスのレベルを上げて、仲間たちと楽しくテニスをしており、若さのせいかポテンシャルなのか、羨ましい限りです。

昔取った杵柄、ならぬ、昔もとともに取れていなかった杵柄を、改めてとるのはなかなか容易なことではありませんが、人の優しさを知り、まだまだ自分も頑張れる(…かもしれない?)という希望を知るという、とてもいい機会を運んできてくれた

テニスには感謝しかありません。



JVA事務局人事

11月1日付で、業務部に船山浩介が入社いたしました。

今後、会員社の皆様とも接する機会があると思います。よろしくお願ひ申し上げます。

日誌に見る協会の動き

【10月】

- 2日 ほんと?ホントフェアin池袋
- 4日 第422回定例理事会(オンライン開催)
- 5日 マーケティング委員会(オンライン開催)
- 7日 権利者対応委員会(オンライン開催)
- 著作権部会(オンライン開催)
- 11日 デジタル配信部会幹事会(オンライン開催)
第316回総合連絡委員会(書面審議)

- 12日 JASRAC協議
- 19日 中堅社員合同研修会開催(オンライン開催)
- 21日 業務使用対策委員会(オンライン開催)
- 27日 第318回業務部会幹事会(オンライン開催)
- マーケット調査委員会
(映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査(オンライン開催))

【11月】

- 1日 第423回定例理事会(書面開催)
- 2日 マーケティング委員会(オンライン開催)
- 4日 著作権部会(書面開催)
- 8日 第317回総合連絡委員会(書面審議)
- 14日 デジタル配信部会委員会(オンライン開催)

- 17日 関西地区連定例会議(オンライン開催)
- 18日 業務使用対策委員会(オンライン開催)
- 24日 第319回業務部会幹事会(オンライン開催)
- 25日 中部地区連定例会議
- 30日 総務人事委員会(オンライン開催)

【12月】

- 2日 著作権部会(書面開催)
- 3日 ほんと?ホントフェアin富山
- 6日 第424回定例理事会(オンライン開催)
- 7日 マーケティング委員会(オンライン開催)
- 8日 消費者委員会(オンライン開催)

- 12日 デジタル配信部会(オンライン開催)
- 13日 第318回総合連絡委員会(書面審議)
- 15日 JASRAC協議
- 16日 業務使用対策委員会(オンライン開催)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年も何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様には毎年ルーティンのように繰り返し見る映画はありますでしょうか。私はお正月になると決まって『シャイニング』を見たくなるのですが、どうやら寒い日に炬燵でアイスを食べたくなる心理と同じなのか、雪に閉ざされた閉塞感を味わいたくなる

ようです。もう1本は『アマデウス』。毎年実家で見ているせいか、年の瀬が迫ると「交響曲 第25番 ト短調 K.183 第1楽章」が頭の中を駆け巡り、急き立てられるように実家に帰ることになるのです。皆様のルーティン映画にはどんな作品があるのでしょうか。毎年見ていてセリフや字幕を覚えているシーンするのに、気が付くとまた同じ映画を見てしまいませんか?(K)